

土木学会鋼構造委員会 小委員会活動報告

小委員会名	部材耐力の部分係数および安全性評価に関する検討小委員会	委員長	村上 茂之	連絡幹事	野上 邦栄
活動予定期間	平成20年11月 ～ 平成22年11月 2年間 → <u>平成23年11月 3年間</u>				
活動の目的	<p>柱部材、はり部材およびそれらの構成要素を対象とし、鋼・合成構造標準示方書に提示された、</p> <p>(1) 部材耐力式の根拠の明確化</p> <p>(2) 部材耐力式の適用区分の明確化</p> <p>(3) 安全性照査式の適用根拠の明確化</p> <p>(4) 照査式フォーマットの統一化</p> <p>をすすめ、性能照査型限界状態設計法に準ずる設計コードとしての完成度を高める。</p>				
これまでの活動状況	<p>前回の鋼構造委員会開催以降</p> <p>第11回小委員会 平成23年10月19日 土木学会E会議室 目次構成案の提示、桁橋への適用、鉄道における作用係数.</p> <p>第12回小委員会 平成23年11月30日 土木学会役員会議室 報告書構成案の提示、調査研究編のまとめ.</p> <p>メールにて、報告書の取りまとめ作業を実施。平成24年2月にて完了.</p>				
今後の活動計画と目標とする成果	—				
PRポイント	(例えば、幅厚比パラメータが小さい、塑性化する領域の評価を考慮するような、)より合理的かつ競争力のある設計フォーマットの策定を実現するための活動を行う。				
その他	<p>報告書構成 (CD-ROM版を作成、標準示方書の改訂組織へ)</p> <p>第1編 調査研究編 — 委員会活動</p> <p>第2編 示方書案編 — 標準示方書の書式に合わせた部分係数、耐荷力式</p> <p>第3編 資料編 — 委員会活動で提出された資料</p>				